

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00986

研究課題名(和文) グローバル生産ネットワークと産業集積

研究課題名(英文) Global Production Network and Industrial Agglomeration

研究代表者

古澤 泰治 (Furusawa, Taiji)

東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授

研究者番号：80272095

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,820,000円

研究成果の概要(和文)：サプライ・チェーンのグローバル化を定量的に分析するため、新たな一般均衡貿易モデルを構築し、新興市場国の生産性や財の質的向上が各国経済に与えた影響や、グローバル・バリュー・チェーン(GVC)の進展がもたらした各国内の所得格差を定量的に推計した。また、基本モデルをAIとロボットを組み込んだモデルに拡張し、AIやロボットが各国の労働市場に与える影響を推計し、貿易自由化の影響と比較した。さらに、GVCの進展により、経済の歪みが拡大し厚生損失も大きくなるというGVCの負の面も明らかにした。企業間の取引マッチングの効率性や、産業クラスター政策の効果、そしてGVC形成に重要な輸送費に関する研究も進んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、地政学的緊張などから、グローバルなサプライ・チェーンを再構築する動きが出ている。こうした動きの影響を正しく推計し、関連政策に反映させることは喫緊の課題である。このような背景下で、GVCを組み込んだ一般均衡貿易モデルを精緻化し、その基本モデルを分析テーマによって拡張しながら、様々な政策課題について政策効果を推計できる研究基盤を構築したのは、大きな社会的・学術的意義がある。実際、AIとロボットが世界の労働市場に与える影響を推計するという世界初となる研究を行ったりした。AIやロボットは今後益々影響力を増すだろう。本研究は、それに伴い進んでいくと考えられる研究の先駆的存在となった。

研究成果の概要(英文)：In order to quantitatively analyze the globalization of supply chains, we built a baseline, quantifiable, general equilibrium, trade model and estimated the effect of the improvement of productivity and quality upgrading in the emerging-market economies on other countries and the effect of the progress of global value chains (GVCs) on income inequality within the countries. We also extended the model by including AI and robots as production factors to estimate their impacts on labor markets worldwide. In addition, we unveiled that the progress of GVCs increments distortion thereby amplifying the loss in social welfare, a negative aspect of GVCs. We also made progress in research on the matching efficiency in firms' transactions, the effect of industrial cluster policy, and the transport cost, which is a core factor of GVC formation.

研究分野：国際経済学

キーワード：グローバル・バリュー・チェーン マッチング 所得格差 AI ロボット サプライ・チェーン グローバリゼーション 産業集積

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

(1) ICT 技術や輸送技術の発達により、グローバル化が進み、企業は生産工程を細分化し、各工程を適切な国や地域に割り当てるようになった。企業間取引ネットワークは複雑化し、サプライ・チェーンはグローバル化した。グローバル・サプライ・チェーンに組み込まれた企業や国にとっては、担当する生産工程にどのくらいの付加価値が落ちてくるかも重要で、こうした付加価値分布も含めたグローバル・サプライ・チェーンはグローバル・バリュー・チェーン(GVC)と呼ばれ、重視されるようになった。

(2) 重要性を増した GVC だが、研究対象としては当時まだ新しく、Caliendo and Parro (2015) が国際産業連関を加味した貿易モデルを提唱し NAFTA の経済効果を検証したくらいにとどまっていた。彼らのモデルでは、中間財貿易と最終財貿易を区別して取り扱うことはできず、中間財貿易の進展が重要な GVC を分析するには不十分だった。

## 2. 研究の目的

(1) グローバリゼーションの各国経済への影響を測るには、GVC を的確に捉える経済モデルの構築が重要だった。貿易費用の低減等によるグローバル化が、各国の産業構造、貿易構造、所得水準、所得分配等に与える影響の定量的分析を可能にする、一般均衡貿易モデルを構築することは、学術的にも価値のあることだった。

(2) 先進国を中心に、グローバル化が国内の所得格差を拡大させたという議論がある。グローバル化の社会的効果を図る際、平均所得が上昇したかという点だけでなく、所得格差上昇という負の効果が生まれたかどうかも重要な視点である。本研究の目的の一つは、グローバル化による所得格差の変化を定量的に測り、グローバル化の経済的効果を多角的に検証することにある。

(3) グローバリゼーションやそれに伴う GVC の進展は、中間財の海外調達を増加をもたらし、国内産業の再編成につながる。グローバル化が国内サプライ・チェーンや産業集積に与える影響を分析し、グローバル化下での、適切な産業政策や貿易政策などを追求するのが重要だった。

## 3. 研究の方法

(1) グローバリゼーションの各国への影響を定量的に測るため、GVC を組み込んだ一般均衡貿易モデルを構築する必要がある。先行研究である Caliendo and Parro (2015) のモデルをベースに、中間財と最終財の区別を明示的に捉えた新たなモデルを構築し、モデルパラメータをモデルに沿ってデータから推計する。使用する主なデータは、国際産業連関表を World Input Output Database から、関税率に関しては UNCTAD TRAINS からとった。こうして分析モデルを確立した上で、グローバル化の影響を見るために、その低下によりグローバル化を牽引した貿易費用を、特に中間材に関してグローバル化以前の水準にしたときの反実仮想分析を行い、グローバル化の各国経済への影響を推計する。

(2) ひとたび GVC を組み込んだ一般均衡貿易モデルを構築すれば、分析したいテーマに従ってその基本モデルを適切に拡張し、様々な反実仮想分析を行うことができる。グローバル化の進展が各国の所得格差に与える影響を定量的に分析するためには、一種類の労働しか存在しない基本モデルを、高スキル労働者と低スキル労働者という少なくとも二種類の労働者が存在するモデルに拡張する必要がある。その上で、中間財に対する貿易障壁の低下が各国の所得格差にどのような影響を与えるかを、定量的に分析することになる。

(3) グローバリゼーションの進展が中間財の海外調達の拡大を通じて国内企業間の取引ネットワークや産業集積に影響を与える状況を分析するには、企業間取引ネットワークを説明する理論の構築が必要となる。そしてそれを実証的に検証しようとする、企業間取引データなど、企業レベルのデータが必要となる。企業レベルまでに落とした一般均衡貿易モデルは過度に複雑化するため、本研究では、企業の海外取引に関する部分は単純化した国内取引経済モデルを構築し、データを用いて、企業の海外取引の増大が国内サプライチェーンに与える影響を探っていく。また、産業集積に対する政策として日本の産業クラスター政策を取り上げ、政策が産業集積や企

業間取引ネットワークに与える影響を分析する。

#### 4. 研究成果 (下線の著者は研究代表者もしくは研究分担)

(1) Calidendo and Parro (2015)のモデルを、各国産業レベルの生産性の変動や成長、及び財の質の変動や成長を導入する形で拡張することに成功した。さらに、貿易費用を中間財貿易と最終財貿易に分けて推計することにより、中間財貿易が制限される場合、つまり GVC が発展していなかったケースについての反実仮想分析が可能になった。

この新たな定量的分析モデルをもとに、Furusawa and Sugita (2020)は、いわゆる新興市場国の生産性や財の質的向上が、他の国々にどのような影響を与えたかについて分析した。その結果、まず新興市場国の台頭といっても国によって様々な形態を取り、中国のように財の質的向上よりも生産性向上の貢献度が高いケースや、逆に財の質的向上の貢献度が高いインドやメキシコのようなケースがあることがわかった。そして、それらの国々の成長の他国の労働市場に与える影響は、それほど大きくないこともわかった。

(2) 基本モデルを高スキル労働者と低スキル労働者に拡張することによって、グローバリゼーションが各国内の所得格差に与える影響についても反実仮想分析することができた。Furusawa, Kuska, and Sugita (2022)は、グローバリゼーションによって、各国の実質賃金は 1993 年から 2014 年の間に大幅に上昇したこと、国によって差があるものの、賃金格差は概ね上昇したことを明らかにした。また、そこでは、AI とロボットが生産活動に利用されるようになったことの労働市場への影響についても分析した。AI は高スキル労働と代替的であり、ロボットは低スキル労働と代替的であるとし、ロボット生産技術の向上や製造業におけるロボットの生産性の向上により、どの程度実質賃金は影響を受けたかを反実仮想分析した。その結果、グローバリゼーションの影響に比べ、ロボットや AI の労働市場への影響は限定的であったことを明らかにした。

(3) 不完全競争の世界では、一般的に市場均衡は効率的でないことが知られている。非効率性がどの程度なのか、そしてそれは GVC の進展により緩和されたのかというのは重要な問いである。Behrens, Mion, Murata, and Suedekum (2020)は、多産業を含む定量的一般均衡モデルを構築し、フランスとイギリスのデータを用いて、市場均衡の非効率性の大きさを推計した。その結果、非効率性による厚生損失は 6%から 10%にのぼることを示した。また、GVC の進展により、経済の歪みが拡大し、厚生損失も大きくなることも明らかにした。

(4) 企業間取引に関して重要なのは、企業間マッチングの特性である。特に、生産性の高い企業同士が取引する傾向にあるのか、それともマッチングに生産性は影響しないのかという問題は、経済全体の効率性を考える際に重要である。Sugita, Teshima, and Seira (2021)は、メキシコとアメリカの繊維・衣服の貿易自由化に端を発したメキシコ・アメリカ間の国際取引相手の組み替えに注目し、生産性の高い企業同士がマッチングする傾向にあり、効率的なマッチング組み換えにより、貿易自由化の恩恵が増大することを明らかにした。

(5) グローバリゼーションによる GVC の進展は国内取引関係にも影響を及ぼす。Furusawa, Inui, Ito, and Tang (2020)は、中間財の海外調達による国内取引相手の変更について分析している。実際、輸入企業が国内取引相手を変えることにより、国内産業の集積度も変わってくる可能性がある。本研究はまだ継続中だが、グローバリゼーションの国内産業集積への影響を定量的に推計するのは意義深いと考える。産業集積政策の効果を分析したのが、Okubo, Okazaki, and Tomiura (2022)である。日本の産業クラスター政策は、対象企業のクラスター内における取引ネットワークを拡大しただけでなく、距離の離れたクラスター外の企業とのネットワークも拡大したことが明らかになった。産業政策の有効性を示した興味深い結果である。

(6) GVC の進展は、関税、非完全障壁、輸送費などの貿易費用低減によるところが大きい。近年、運輸産業を明示的にモデルに組み込むことにより貿易費用の内生化を試みる研究が盛んに行われるようになってきた。先鞭をつけた一つが Ishikawa and Tarui (2018)である。この理論研究は、輸送業者が行きと帰りで積荷をバランスさせたいと考えるバックホール問題により、輸入関税の低減が輸出の増加につながることを示したものである。この理論はデータによっても確かめられた。Hayakawa, Ishikawa, and Tarui (2020)は、1995 年から 2007 年にかけてのデータを検証し、1%の関税率削減は、0.8%の輸入貨物輸送費を上昇と 1.1%の輸出貨物輸送費の下落をもたらし、結果的に輸出量を 0.6%から 1%ほど引き上げることを明らかにした。

<引用文献>

Behrens, Kristian, Giordano Mion, Yasusada Murata, and Jens Suedekum (2020), "Quantifying the Gap Between Equilibrium and Optimum Under Monopolistic Competition", *Quarterly Journal of Economics*, 135, 2299-2360.

Caliendo, Lorenzo and Fernando Parro (2015), "Estimates of the Trade and Welfare Effects of NAFTA", *Review of Economic Studies*, 82, 1-44.

Furusawa, Taiji, Shoki Kusaka, and Yoichi Sugita (2022), "The Impacts of AI, Robots, and Globalization on Labor Markets: Analysis of a Quantitative General Equilibrium Trade Model" in Lili Yan and Gene Grossman (eds.) *Robots and AI: a New Economic Era*, Oxon and New York: Routledge.

Furusawa, Taiji, Tomohiko Inui, Keiko Ito, and Heiwai Tang (2020), "Global Sourcing and Reorganizing Domestic Supply Chains", Unpublished manuscript.

Furusawa, Taiji and Yoichi Sugita (2020), "The Welfare Effect of Foreign Productivity and Quality Growth: A Quantitative Analysis", *The International Economy*, 20, 235-261.

Hayakawa, Kazunobu, Jota Ishikawa, and Nori Tarui (2020), "What Goes Around Comes Around: Export-Enhancing Effects of Import-Tariff Reductions", *Journal of International Economics*, 126, 103362.

Ishikawa, Jota and Nori Tarui (2018), "Backfiring With Backhaul Problems: Trade and Industrial Policies With Endogenous Transport Costs", *Journal of International Economics*, 111, 81-98.

Okubo Toshihiro, Tetsuji Okazaki, and Eiichi Tomiura (2022), "Industrial Cluster Policy and Transaction Networks: Evidence from Firm-Level Data in Japan", *Canadian Journal of Economics*, 55, 1990-2035.

Sugita, Yoichi, Kensuke Teshima, and Enrique Seira (forthcoming), "Assortative Matching of Exporters and Importers", *Review of Economics and Statistics*.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 12件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Toshihiro Okubo, Testuji Okazaki, Eiichi Tomiura	4. 巻 掲載確定
2. 論文標題 Industrial Cluster Policy and Transaction Networks: Evidence from Firm-level Data in Japan (掲載確定)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Canadian Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 掲載予定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoichi Sugita, Kensuke Teshima, Enrique Seira	4. 巻 掲載確定
2. 論文標題 Assortative Matching of Exporters and Importers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Review of Economics and Statistics	6. 最初と最後の頁 掲載予定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/rest_a_01114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jota Ishikawa, Nori Tarui	4. 巻 207
2. 論文標題 You Can't Always Get What You Want: Protectionist Policies with the Transport Sector	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Economics Letters	6. 最初と最後の頁 110009
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.econlet.2021.110009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Choi, Jay Pil, Taiji Furusawa, and Jota Ishikawa	4. 巻 127
2. 論文標題 Transfer Pricing Regulation and Tax Competition 掲載確定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of International Economics	6. 最初と最後の頁 103367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jinteco.2020.103367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Furusawa, Taiji and Yoichi Sugita	4. 巻 20
2. 論文標題 The Welfare Effect of Foreign Productivity and Quality Growth: A Quantitative Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The International Economy	6. 最初と最後の頁 235-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5652/internationaleconomy/ie2020.23.05.tf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Furusawa, Taiji, Hideo Konishi, and Duong Lam Anh Tran	4. 巻 122
2. 論文標題 International Trade and Income Inequality	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scandinavian journal of Economics	6. 最初と最後の頁 993-1026
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/sjoe.12360	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jay Pil Choi, Jota Ishikawa, Hirofumi Okoshi	4. 巻 なし
2. 論文標題 Transfer pricing of intangible assets with the arm's length principle	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 VoxEU	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomiura, E., B. Ito, H. Mukunoki, R. Wakasugi	4. 巻 58
2. 論文標題 Individual characteristics and the demand for reciprocity in trade liberalization: Evidence from a survey in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 101071
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2021.101071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kristian Behrens, Giordano Mion, Yasusada Murata, Jens Suedekum	4. 巻 135
2. 論文標題 Quantifying the gap between equilibrium and optimum under monopolistic competition	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Quarterly Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 2299-2360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/qje/qjaa017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishikawa Jota, Komoriya Yoshimasa, Sugita Yoichi	4. 巻 20
2. 論文標題 Cross-border Technology Licensing and Trade Policy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The International Economy	6. 最初と最後の頁 28-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5652/internationaleconomy/ie2020.23.04.ji	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiro Okubo and Eiichi Tomiura	4. 巻 27
2. 論文標題 Regional Variations in Productivity Premium of Exporters: Theory and Evidence	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of International Economics	6. 最初と最後の頁 803-821
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/roie.12398	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gabriel Felbermayr, Fukunari Kimura, Toshihiro Okubo, and Marina Steininger	4. 巻 51
2. 論文標題 Quantifying the EU-Japan Economic Partnership Agreement	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 110-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2018.12.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Aya Suzuki, Yukichi Mano, and Girum Abebe	4. 巻 27
2. 論文標題 Changing saving and investment behavior: the impact of financial literacy training and reminders on micro-businesses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of African Economies	6. 最初と最後の頁 587-611
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2018.05.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 John Gilbert, Taiji Furusawa, and Robert Scollay	4. 巻 41
2. 論文標題 The Economic Impact of the Trans-Pacific Partnership: What have we learned from CGE Simulation?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 World Economy	6. 最初と最後の頁 831-865
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/twec.12573	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jota Ishikawa and Nori Tarui	4. 巻 111
2. 論文標題 Backfiring with Backhaul Problems: Trade and Industrial Policies with Endogenous Transport Costs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Economics	6. 最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jinteco.2017.12.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayato Kato and Toshihiro Okubo	4. 巻 111
2. 論文標題 Market Size in Globalization	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Economics	6. 最初と最後の頁 34-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jinteco.2017.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する



1. 著者名 Rikard Forslid, Toshihiro Okubo, and Mark Sanctuary	4. 巻 4
2. 論文標題 Trade Liberalization, Transboundary Pollution, and Market Size	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Association of Environmental and Resource Economists	6. 最初と最後の頁 927-957
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/693562	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計36件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Tax Planning of MNEs & Tax Reform in Digital Economy
3. 学会等名 HARNESSING A DIGITAL ECONOMY FOR SUSTAINABLE AND INCLUSIVE DEVELOPMENT (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富浦英一
2. 発表標題 中国からの輸入が日本の労働移動に与えた影響について：就業構造基本調査マイクロデータを用いた実証分析
3. 学会等名 令和3年度匿名データ等利用推進ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 The Impacts of AI, Robots, and Globalization on Labor Markets: Analysis of a Quantitative General Equilibrium GVC Model
3. 学会等名 Asia Pacific Trade Seminars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 The Impacts of AI, Robots, and Globalization on Labor Markets: Analysis of a Quantitative General Equilibrium Trade Model
3. 学会等名 IEFS China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Corporate Tax & Multinational Enterprises
3. 学会等名 Global Value Chain Training and Research Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 Nonparametric Identification of Production Function, Total Factor Productivity, and Markup from Revenue Data
3. 学会等名 The Kobe Workshop on International Trade and FDI (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 The Impacts of AI, Robots, and Globalization on Labor Markets: Analysis of a Quantitative General Equilibrium GVC Model
3. 学会等名 KEOセミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 Nonparametric Identification of Production Function, Total Factor Productivity, and Markup from Revenue Data
3. 学会等名 The 2021 China meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Trade Liberalization, Educational Choice, and Income Distribution
3. 学会等名 Winter International Trade Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富浦英一
2. 発表標題 誰が保護主義を支持しているのか～マイクロデータからの考察～
3. 学会等名 日本国際経済学会関東支部新春シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Transfer Pricing and Tax Competition
3. 学会等名 HKUST Conference on International Economics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Transfer Pricing and Tax Competition
3. 学会等名 2019 CCER Summer Institute (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Transfer Pricing and Tax Competition
3. 学会等名 Global Value Chain Training and Reserach Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Growth of Knowledge-Intensive Sector and Secular Stagnation in the Global Economy
3. 学会等名 日本国際経済学会全国大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古沢泰治
2. 発表標題 Global Sourcing and Reorganization of Domestic Supply Chain
3. 学会等名 Workshop on World Economy and Frontioers of International Economics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Transfer Pricing and the Arm's Length Principle under Imperfect Competition
3. 学会等名 2019 CCER (China Center for Economic Research, Peking University) Summer Institute (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Tax Havens and Cross-Border Licencing
3. 学会等名 Asia Pacific Trade Seminars (APTS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 自由貿易を巡って
3. 学会等名 京都大学経済研究所主催シンポジウム「文明と国際経済の地平～G20大阪サミットを受けて～」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Tax Havens and Cross-border Licensing
3. 学会等名 International Workshop "Frontiers in Research on Offshoring" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Tax Havens and Cross-border Licensing
3. 学会等名 IIPF Annual Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Tax Havens and Cross-border Licensing
3. 学会等名 Workshop on: Trade, Innovation & Global Value Chains ( 招待講演 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Cross-border Technology Licensing and Trade Policy
3. 学会等名 Workshop on International Trade and FDI ( 招待講演 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 Global Value Chains and Aggregate Income Volatility
3. 学会等名 UTokyo Workshop for Global Value Chains ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 Global Value Chains and Aggregate Income Volatility
3. 学会等名 日本国際経済学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉田洋一
2. 発表標題 Global Value Chains and Aggregate Income Volatility
3. 学会等名 Summer Workshop on Economic Theory (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taiji Furusawa
2. 発表標題 Relationship Specificity, Market Thickness and International Trade
3. 学会等名 CAGEO International Workshop on Trade and Trade Policy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taiji Furusawa
2. 発表標題 Transfer Pricing and Arm's Length Principle under Imperfect Competition
3. 学会等名 China-Japan Workshop on International Economics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taiji Furusawa
2. 発表標題 Transfer Pricing and Arm's Length Principle under Imperfect Competition
3. 学会等名 The 1st Hawaii-Hitotsubashi-Keio (H2K) Workshop on International Economics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Eiichi Tomiura
2. 発表標題 Regional Variations in Productivity Premium of Exporters: Theory and Evidence
3. 学会等名 Hitotsubashi-Peking University Second Economics Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Transfer Pricing and the Arm's Length Principle under Imperfect Competition
3. 学会等名 Annual Conference, Athens College & Psychiko College (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jota Ishikawa
2. 発表標題 Transfer Pricing and the Arm's Length Principle under Imperfect Competition
3. 学会等名 Kobe International Conference on "Time Zones, Offshoring, Economic Growth and Dynamics" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Michal Fabinger
2. 発表標題 The Average-Marginal Relationship and Tractable Equilibrium Forms
3. 学会等名 Society for the Advancement of Economic Theory Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taiji Furusawa
2. 発表標題 Relationship Specificity, Market Thickness and International Trade
3. 学会等名 International Conference on Trade, Financial Integration and Economic Growth ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Taiji Furusawa
2. 発表標題 Relationship Specificity, Market Thickness and International Trade
3. 学会等名 IEFS Japan ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eiichi Tomiura
2. 発表標題 Industrial Cluster Policy and Transaction Networks: Evidence from Firm-level Data in Japan
3. 学会等名 Asian Meeting of the Econometric Society ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukichi Mano
2. 発表標題 Simple Institutions and Social Norms to Escape Poverty Trap: Evidence from Lab and Artifactual Field Experiments in Ethiopia
3. 学会等名 Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Lili Yan Ing and Gene Grossman	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 27
3. 書名 Robots and AI: a New Economic Era (Taiji Furusawa, Shoki Kusaka, and Yoichi Sugita)	

1. 著者名 松尾剛彦 / 石川城太 / 藤田昌久 / 溝端佐登史 / 服部崇	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 209
3. 書名 文明と国際経済の地平	

1. 著者名 Richard Baldwin and Beatrice Weder di Mauro	4. 発行年 2020年
2. 出版社 CEPR Press	5. 総ページ数 13
3. 書名 Economics in the Time of COVID-19, Chapter 5, Thinking ahead about the trade impact of COVID-19 (Richard Baldwin and Eiichi Tomiura)	

1. 著者名 矢野誠 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 20
3. 書名 第四次産業革命と日本経済 第2章 第四次産業革命の中で変容する国際貿易・海外直接投資 (富浦英一)	

1. 著者名 Eiichi Tomiura	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 251
3. 書名 Cross-border Outsourcing and Boundaries of Japanese Firms: A Microdata Economic Analysis	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉田 洋一  (Sugita Yoichi)  (20743719)	一橋大学・大学院経済学研究科・准教授   (12613)	
研究分担者	富浦 英一  (Tomiura Eiichi)  (40273065)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授   (12613)	
研究分担者	村田 安寧  (Murata Yasusada)  (40336508)	日本大学・経済学部・教授   (32665)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 城太  (Ishikawa Jota)  (80240761)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授    (12613)	
研究分担者	ファビンガー ミハル  (Fabinger Michal)  (00715998)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・特任講師    (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	タン ヘイワイ  (Tang Heiwai)		
研究協力者	樽井 礼  (Tarui Nori)		
研究協力者	小西 秀男  (Konishi Hideo)		
研究協力者	バーレンズ クリスチャン  (Behrens Kristian)		
研究協力者	手島 健介  (Teshima Kensuke)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大久保 敏弘  (Okubo Toshihiro)		
研究協力者	田中 万里  (Tanaka Mari)		
研究協力者	真野 裕吉  (Mano Yukichi)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Asia Pacific Trade Seminars	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Asia Pacific Trade Seminars	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 UTokyo Workshop for Global Value Chains	開催年 2019年～2019年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関